

たまにしか使わないデバッガのめも.

Go で使うにはコンパイル時にオプションを付ける

```
# go build -gcflags="-N -l" hoge.go
```

```
# gdb hoge.exe
```

gcc では、デバッグ情報を付加し、最適化を施さない

```
# gcc -g -O0 hoge.c
```

■ 使い方

まずは

run で走らせる

run arg1 arg2 で引数を指定して走らせる

l(list の略) でソースを表示

b(break の略) でブレークポイントの設定

例えば, b 10 で 10 行目に設定

info breakpoints でブレークポイントの一覧を表示

そして run するとブレークポイントまで行く

n(next の略) でステップ実行

d(delete の略) で指定したブレークポイントを削除

c(continue の略) でブレークポイントから抜ける

p(print の略) で変数の中身の表示

set で変数の中身を変更

例えば, set i = 10

計算もできる

5.3 / 2.1